SDGs
未来都市
大田区

Ota City SDGs Future City Plan Digest

新産業と匠の技が融合する イノベーションモデル都市

大田区SDGs未来都市計画ダイジェスト版

大田区のまちの特徴は？
どんなまちを目指していく？
未来をどうやって実現する？

大田区
OTA CITY

SDGs
未来都市
大田区

大田区は「SDGs未来都市」。
持続可能なまちづくりを進めています

大田区はSDGsの達成に向けて優れた取組を提案する都市として、
内閣府から2023年度の「SDGs未来都市」に選定されるとともに、
その中でも特に優れた先導的な取組を行う「自治体SDGsモデル事業」にも選定されました。
世界中の誰もが暮らし続けられる、持続可能な世界の実現。
そのために2030年までに達成すべき目標として掲げられているのがSDGsです。
「大田区SDGs未来都市計画」は、大田区のSDGs達成に向けた“計画書”。
本書はそのダイジェスト版として、大田区の現在の姿と「2030年のあるべき姿」、
そして持続可能なまちを実現する方法を紐解いていきます。

SDGsは「持続可能な開発目標」

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成するべき「持続可能な開発目標」のこと。17の目標と、それぞれの目標を達成するための169のターゲットが設けられています。その原則は、「誰一人取り残さない（Leave No One Behind）」こと。地理的な制約、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、貧困や飢餓、暴力をなくし、地球環境を壊さずに経済を持続可能な形で発展させ、人権が守られている世界の実現を目指しています。

大田区のまちの特徴は？

ものづくりとイノベーションが共存する、東京の縮図

東京23区で、面積は61.86㎢ともっとも広く、人口は約73万人で3番目。
東京の縮図のような環境に、“ものづくり”と“イノベーション”が共存しているのが大田区です。
持続可能なまちづくりのためには、まちの良さを活かすことは欠かせません。
まずは、現在の大田区の特徴と課題を、それぞれ見ていきます。

大田区の3つの特徴

特徴 1　多様性と魅力あふれる“東京の縮図”

世界の都市とつながる羽田空港がある一方、多くの町工場が点在。各所に賑わいあふれる商店街が伸びるなど、さまざまな顔がある大田区。多摩川をはじめ、海辺や台地部など豊かな自然と美しい街並があり、良好な住宅地から、商業が集積する中心市街地、埋立島部の工業地域まで、土地利用も多様です。

右の図のように、土地の使われ方としても田園住居地域を除くすべての用途が指定されており、多様な環境が集まっていることがわかります。大田区はまさに“東京の縮図”なのです。

特徴 2　匠の技術が集う“ものづくり”のまち

工場数、従業員数、製造品出荷額（従業員数4人以上）は東京23区中1位。これまで大田区は、この「産業の集積」という強みを活かした地域内分業体制“仲間まわし”で、短納期・高精度のものづくりを実現してきました。さらに近年は、ベンチャーやスタートアップ企業が事業所を構えるなど、新たな動きも出始めています。

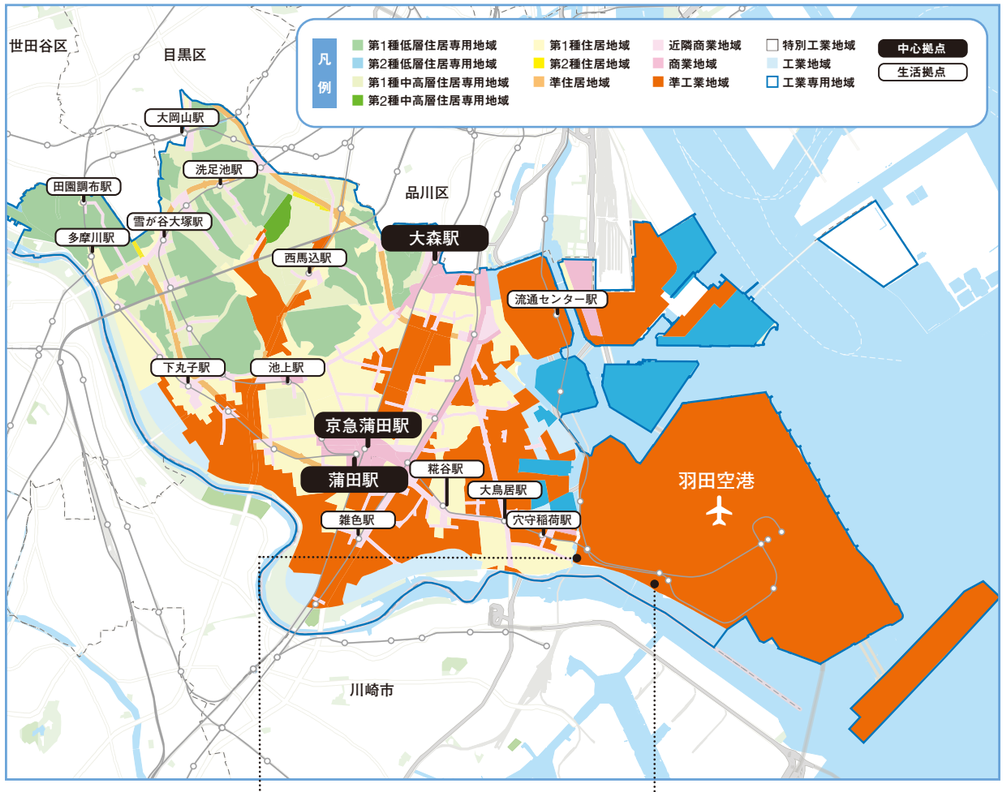
また、産業支援の拠点である「大田区産業プラザ（愛称：PiO）」を設置し、環境や基盤の整備と活性化、産業活動の担い手の福祉向上を図っています。

特徴 3　“イノベーション”が生まれる交通結節点

羽田空港のほか、京急・東急・JR東日本・東京モノレール・都営地下鉄と数多くの鉄道路線が走り、都市高速道路第1号線・都市高速道路湾岸線をはじめとする幹線道路も通ってます。大田区は、東京圏のみならず、世界各国を結ぶ重要な交通結節点です。

さらに羽田空港跡地再開発で生まれたエリア「HANEDA GLOBAL WINGS」や、その一部を構成する大規模施設「羽田イノベーションシティ」など、近年は羽田空港に近接する新たな拠点も誕生しています。

● DATA: 大田区の用途地域



PICK UP

・HANEDA INNOVATION CITY・

「未来に向けて羽ばたくまちづくり」を推進するエリア、HANEDA GLOBAL WINGSの第1ゾーンとなる「羽田イノベーションシティ」。天空橋駅直結、敷地面積約5.9ヘクタールの大規模複合施設に、モビリティ、健康医療、ロボティクス分野の先端企業が集積しています。イベントホールも備えるジャパンカルチャーの発信拠点です。

PICK UP

・HANEDA AIRPORT GARDEN・

空港や市街地と近接する第1ゾーン「羽田イノベーションシティ」とともに、HANEDA GLOBAL WINGSを構成するのが、国際線地区直結の第2ゾーン「羽田エアポートガーデン」。日本最大となる2つのエアポートホテルを核に、日本の玄関口にふさわしい90店舗からなる商業施設を備えた複合開発プロジェクトです。

大田区の3つの課題とは？

「持続可能なまちづくり」を目指すためには、解決すべき課題があります。近年、町工場の数は減少傾向にあり、CO_2排出量の水準も高く、さらにまちの活力を生み出す人々の数も減っていくことが予測されています。SDGsの達成には、これらの解決が欠かせません。

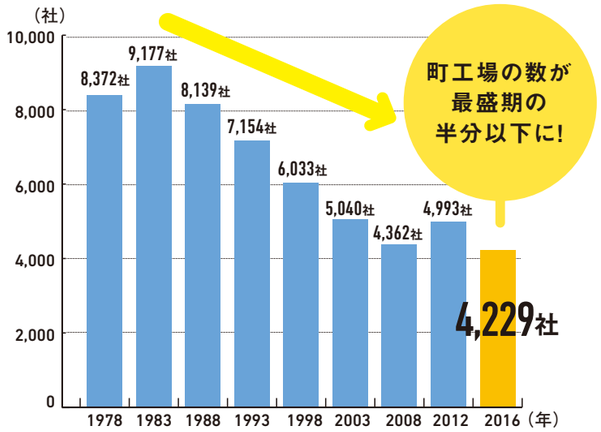
課題

1 産業の持続可能な成長への支援

大田区にはかつて9,177社もの町工場がありました。ところが高齢化や後継者不足等によって年々減少、2016年には4,229社と最盛期の半分以下に。この傾向は大田区のものづくり、さらには区内経済全体に影響するかもしれません。

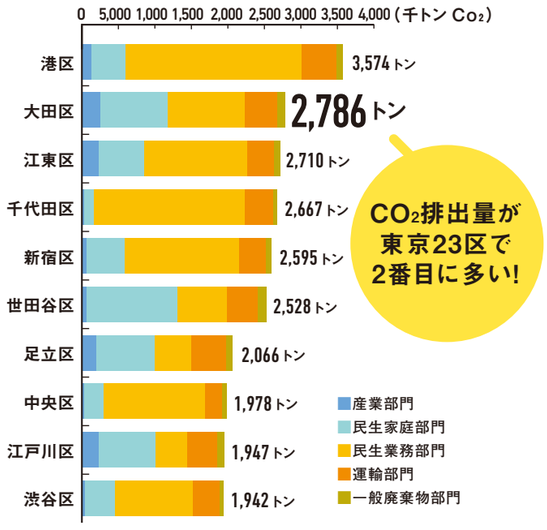
持続可能な成長を遂げるには、ものづくり産業を維持・発展させつつ、産業が長期的・安定的に“稼ぐ”力を強化していく必要があります。そのためには、羽田イノベーションシティで生まれる新産業や最先端技術と、各地域で培われてきた高度なものづくり技術との結びつきを強め、イノベーションの創出を促進することが欠かせません。

●DATA: 製造業の事業所数の推移



※「大田区ものづくり産業等実態調査」（2020年3月）を元に作成。

●DATA: CO_2 排出量の23区の比較



※オール東京62市区町村共同事業「『みどり東京・温暖化防止プロジェクト』2019年度温室効果ガス排出量（推計）算定結果」を元に作成。

課題

2 脱炭素・循環型社会の構築

日本を含む多くの国・地域が2050年までのカーボンニュートラル実現を目標に掲げ、SDGsにも「気候変動に具体的な対策を」という目標があります。脱炭素・循環型社会の構築は待ったなしの状況。しかし大田区はCO_2排出量が東京23区で2番目に多い状況（2019年時点）にあり、カーボンニュートラルを目指すためには、事業者や区民などさまざまな主体と連携した取組を強化していかねばなりません。

産業の成長が環境を犠牲にすることがないよう、また環境のみを考慮するあまり産業の成長を止めてしまうことがないよう、両者が調和したまちを実現していくことが重要です。

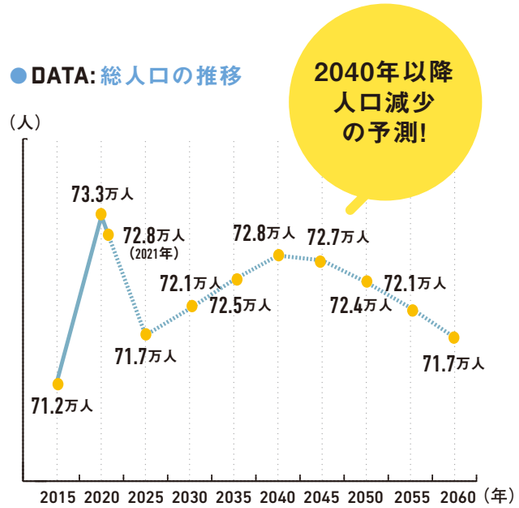
課題

3 子育て環境の整備と人材育成

大田区の人口は増加を続け、2019年には73万人を越えたものの、コロナ禍以降は転出超過となり、2020年には1995年以降初めて減少。この減少傾向は2025年までと見込まれていますが、増加傾向に戻ったあとも2040年以降は再び人口減少に転じる予測です。

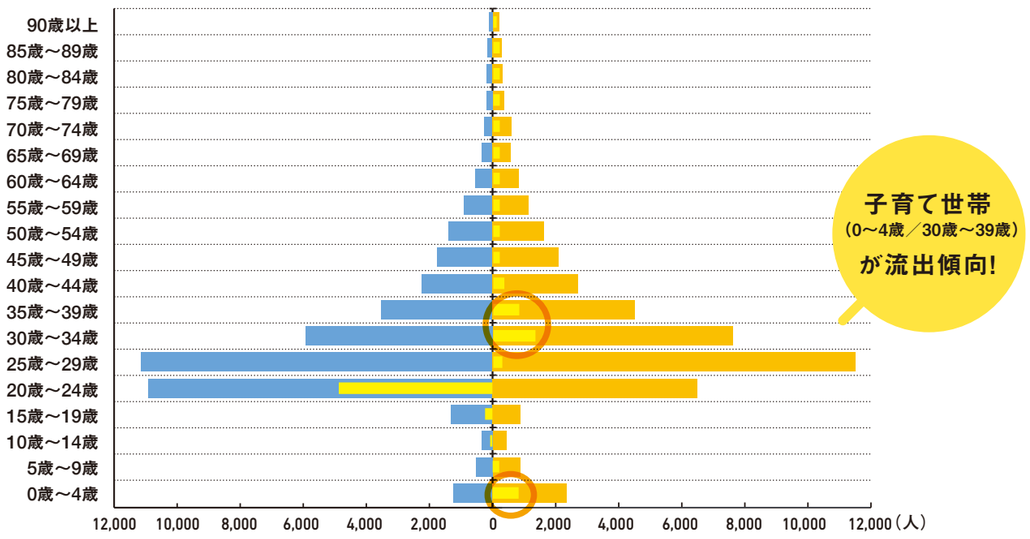
転入転出数を見ると、0～4歳と30～39歳、つまり子育て世帯が大きく転出超過の状態です。この傾向が続けば、産業の担い手が不足する、大田区の強み“地域力”が衰退し、まちの活力が低下するなどのおそれがあります。誰もが子を産み・育てやすいまちの実現、そして将来の経済の担い手へと育てていくことは大きな課題のひとつです。

●DATA: 総人口の推移



※「大田区人口推計（2022年3月）」を元に作成。

●DATA: 年齢別転入転出数（2021年）



※「総務省「住民基本台帳人口移動報告 年報」を元に作成。

FUTURE VISION

どんなまちを目指していく？

次代のイノベーションの担い手が生まれ続ける

持続可能なまちづくりのために必要なのが、未来を具体的に描くこと。
SDGs達成の期限である2030年、大田区はどんなまちとなっているのでしょうか。
稼ぐ力が高まり、環境と産業が調和し、イノベーションの担い手が次々と生まれる……。
そんな、大田区が目指す「2030年のあるべき姿」とは？

大田区の未来像

その1 区内産業の「稼ぐ力」が向上し、持続可能な成長を続けるまち

●人手不足解消や生産性向上により、大田区ならではの技術が失われることなく、さらに高度な技術へと磨き上げられている
●羽田イノベーションシティを起点に国内外の企業の交流や最先端技術の活用が進み、絶えず新たな産業やサービスが生み出されている
●羽田イノベーションシティから生まれた新たな産業やサービスが、区内で磨き上げられた匠の技と結びつき、新たなイノベーションの創出へとつながり、区内産業の「稼ぐ力」が向上している

その2 環境と産業が調和した持続可能なまち

●環境に配慮した形での設備投資や事業推進が当たり前のこととなっており、環境を犠牲にすることなく区内産業が成長を続けている
●周辺自治体や民間企業と連携しながら、水素等の利活用を積極的に推進し、次世代クリーンエネルギーの利活用という点で他都市のモデルとなっている
●脱炭素や循環型経済の意識が、行政のみならず区民や民間企業等にも浸透し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組が着実に推進されている

その3 イノベーションの担い手が将来にわたって持続的に生み出されるまち

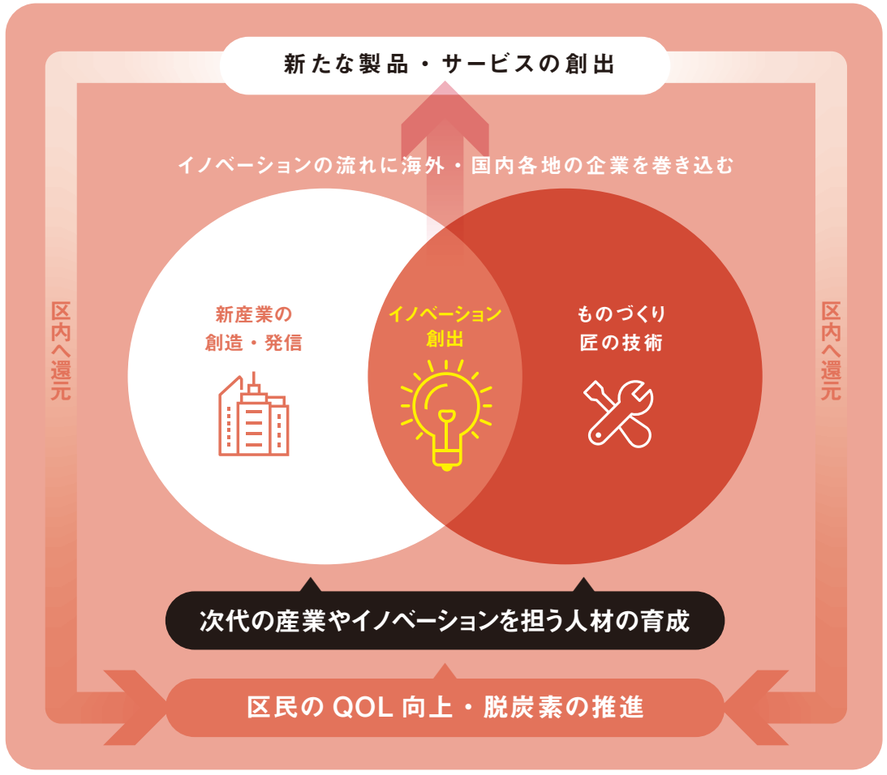
●子どもから大人まで、あらゆる世代が多様な学びを享受でき、区内産業やイノベーションの担い手が次々と生み出される環境が整備されている
●「地域力」を生かした包摂的なサポートによって出産や子育てに関する不安や負担が解消され、将来にわたってまちの活力を維持していくための確かな基盤が構築されている

2030年のあるべき姿

羽田から未来へはばたく おおたSDGs未来都市の実現✈

～新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市～

大田区は、高度な技術を持つ製造業が集積する「ものづくりのまち」と、羽田イノベーションシティを起点とする「新産業を創造・発信するまち」の2側面があります。この2つを結び付けて大きなイノベーションを起こし、区民の生活利便性向上や環境改善に資する技術・サービスを生み出します。そして次代の産業やイノベーションを担う人材の育成につなげることで、この流れを将来にわたり持続可能なものとしながら、国内外の企業を巻き込み、「新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市」としての地位が確立した姿を目指します。



未来をどうやって実現する？

「つくる」「つなぐ」「はばたく」で持続可能なまちへ

大田区が目指すのは、新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市。
その実現のために策定したのが、「おおたの未来創造プロジェクト」です。
キーワードは、つくる・つなぐ・はばたく。それぞれの具体的な内容、
そしてこのプロジェクトを中心とした取組の全体像を見ていきましょう。

おおたの未来創造プロジェクト
～羽田からつくる・つなぐ・はばたく～

KEYWORD 1 つくる
HANEDA GLOBAL WINGS

KEYWORD 2 つなぐ
大田区公民連携 SDGs プラットフォーム
おおたフード支援ネットワーク

KEYWORD 3 はばたく
大田区独自教科「おおたの未来づくり」

3つの分野の取組を同時に進め、持続的な成長の「土台」をつくる

「おおたの未来創造プロジェクト～羽田からつくる・つなぐ・はばたく～」には、大きく分けて3つの取組があります。まず新たな産業を“つくる”のが「HANEDA GLOBAL WINGS」、そして多様なステークホルダーを“つなぐ”のが「大田区公民連携SDGsプラットフォーム」と「おおたフード支援ネットワーク」、さらに次代に向けて“はばたく”のが、人材を育成する「大田区独自教科『おおたの未来づくり』」です。

この3つを統合的に進めていくことで、羽田に集積する国内外のヒト・モノ・情報の交流を活性化させてイノベーションを創出し、ものづくり産業のさらなる発展を目指していきます。同時に、将来の地域社会を担う人材を育成し、企業や大学など多様な主体と匠の技術力を掛け合わせることで、新たな価値を創造していきます。

「おおたの未来創造プロジェクト」は、将来にわたる持続的な成長の土台をつくるためのものです。この仕組みを構築していくことで、さまざまな主体によるイノベーションの流れを加速させ、SDGs達成に向けた取組を効果的・効率的に推進していきます。

KEYWORD 1 つくる

新産業創造・発信拠点を整備し、憩い・賑わいを生み出す

HANEDA GLOBAL WINGS

「HANEDA GLOBAL WINGS」、その第1ゾーンの羽田イノベーションシティは、新たな産業を創造し、日本のものづくり技術や各地域の魅力を発信する“新産業創造・発信拠点”。第2ゾーンでは羽田エアポートガーデンに加え、ソラムナード羽田緑地として多摩川沿いを整備するほか、河川空間のオープン化に向け社会実験を行い、賑わいを創出します。

羽田イノベーションシティは、スマートシティの実証フィールドでもあります。自動運転バスの走行ルート延伸、配送ロボットとエレベーターの連携実証など研究開発を進めるほか、ものづくりや課題解決を学ぶイベント「ハネラボ」で人材育成を推進。水素ステーションではすでに空港に運行するバスへの供給等が開始、今後も技術普及を推進していきます。

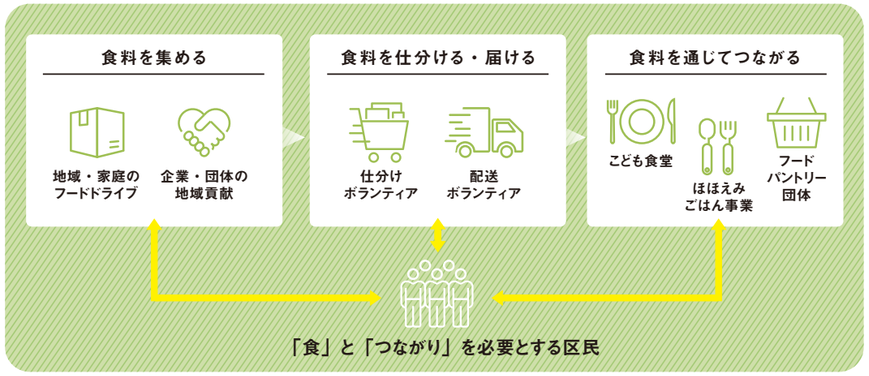
KEYWORD 2
つなぐ

多様なステークホルダーと連携し、地域課題解決につなげる

大田区公民連携SDGsプラットフォーム

「食」で人々をつなげフードロス削減にも貢献

おおたフード支援ネットワーク



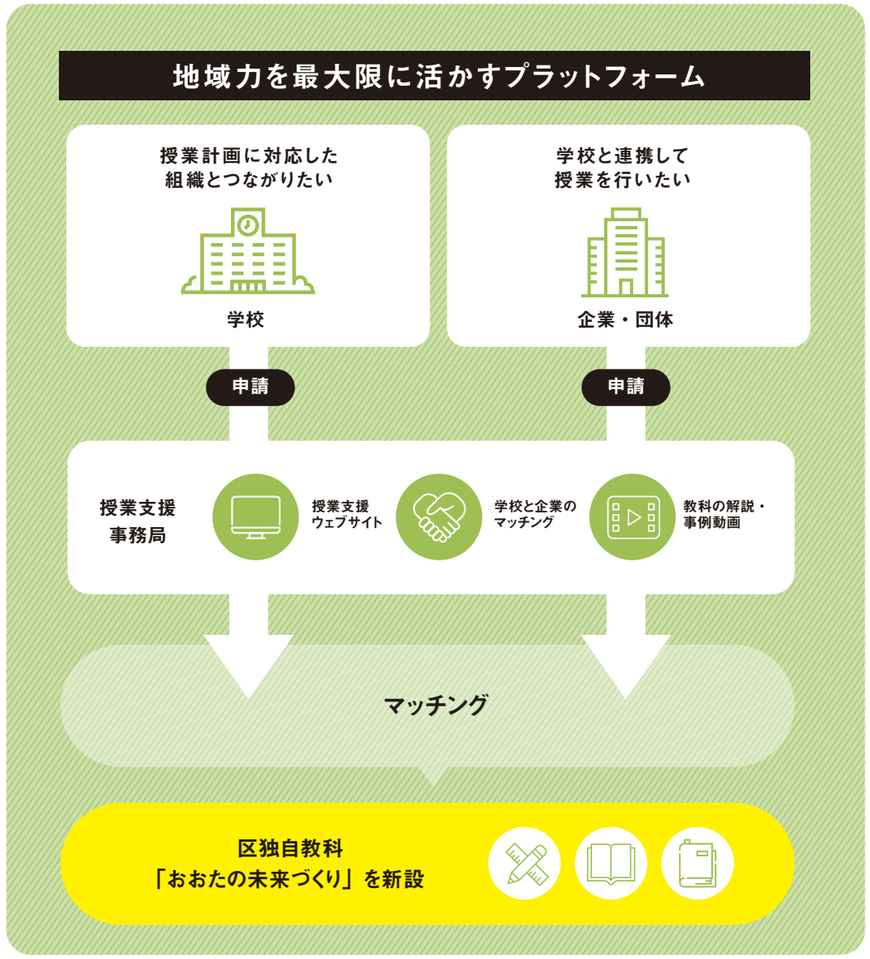
「大田区公民連携SDGsプラットフォーム」は、2022年に設置した地域課題共有・解決の枠組み。企業や大学など多様な組織の強みや注力するSDGsのゴールなどをデータベース化し、地域課題と効率的にマッチングします。参画者同士の“民民連携”も促進、2023年度からは分科会の開催を予定しています。

「おおたフード支援ネットワーク」は、2023年に開始した、区民や自治会・町会、企業などによるフードドライブ活動の推進や、子ども食堂等の区民活動、食を通じた企業の地域貢献活動等をサポートする仕組み。未利用食品の有効活用による食品ロス削減を促進し、食とつながりを必要としている人々への適切な支援を可能にします。この2つの取組によって、大田区内の交流の活性化につなげていきます。

KEYWORD 3
はばたく

STEAM 教育で未来を担う人材を育む

大田区独自教科「おおたの未来づくり」



「おおたの未来づくり」は、区立小学校が対象の独自教科。科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術（Art）、数学（Mathematics）を統合的に学習する「STEAM教育」を推進し、子どもたちの創造的な資質・能力を育むことで、未来を担う人材を育成します。

現在は教科の新設に向け、地域の企業・学校・団体等と連携し“地域力”を最大限に活かしたプラットフォームを構築中。2022年度は、ICTを活用した「製品の開発」や「地域の創生」を教材とする魅力的な単元を研究・実践する研究実践校を7校設置。2023年度以降、年度ごとに15校、30校、60校と対象を増やす予定です。2025年度には区立全小学校が「おおたの未来づくり」の学習を始めることを目指しています。

「おおたの未来創造プロジェクト」とその他の取組のつながり

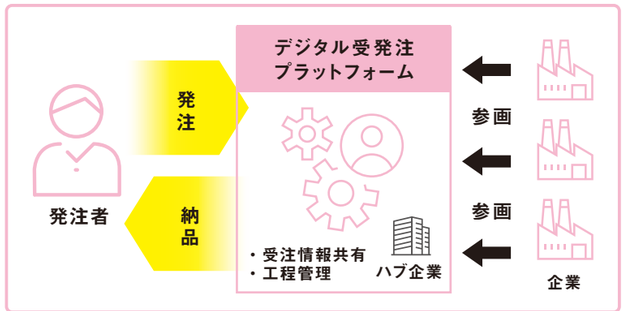
「おおたの未来創造プロジェクト」は、経済・環境・社会の3つの側面におけるSDGs達成に向けたさまざまな取組と連動しています。それぞれの側面が互いに関連しあうことで、より高い相乗効果が発揮されることを目指しています。

環境改善につながる
新製品・サービスの創出

廃棄コストの削減や
企業価値の向上

「経済」の取組

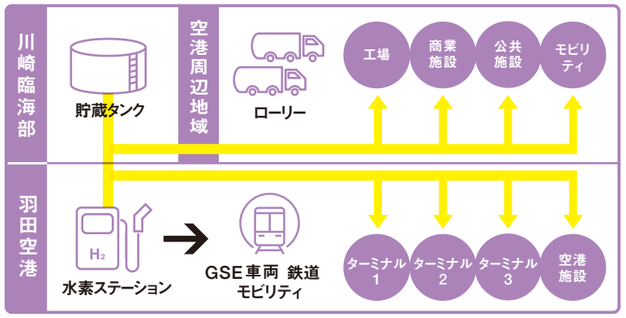
デジタル受発注プラットフォームを活用した「稼ぐ力」の強化



【その他の取組】
- 5G等の新技術の活用
- 六郷BASEを通じた創業支援
- SDGs副業人材による稼ぐ力の強化

「環境」の取組

官民6者連携による羽田空港及び周辺地域における水素利活用調査



【その他の取組】
- 水素利活用の推進
- 個人・事業者の行動変容
- 次世代の環境教育の強化

創造的に生きる力を
兼ね備えた
次代の人材の育成

将来の区内産業・
イノベーションの
担い手の輩出

将来の環境問題の
解決・改善の
担い手の輩出

食料をはじめとする
必要な支援の提供

「社会」の取組

ものづくり人材育成プロジェクト

子ども向け
- 産業のまちスクール事業
- ものづくり実践教室事業

ロボットづくり教室　プログラミングロボットづくり教室

事業者向け
- 経営技術指導講習会
- 次世代経営者育成セミナー
- 工業団体経営革新支援事業講習会

プログラミング　マーケティング　経営講習会

【その他の取組】
- 地域力による子育て支援
- 新たな国際教育の推進